

■英語 文責：青木

総評：やや易～標準

全体としては簡単な問題も難しい問題もあり、今回は英作文が比較的書きにくく、リスニングが易しかったなど、大問間で難易度のバランスがとれていたように思います。ただ、まだ七月なので、時間配分が上手くいかなかった、慣れない問題が多かったと感じた方もいるでしょう。今回の反省点を踏まえ、試行錯誤してこれから力を伸ばして行ってください。

《第1問》標準

A やや易～標準

全体で冒頭の問題提起に答えていく形をとるので、文章の流れは比較的分かりやすく、最後のポイントを押さえるのはある程度の力がある人にとっては難しくなかったと思います。

第一段落では「創作文は教えることができるものか？」という問いから始まり、創造力は教えられないものではないと述べています。第二段落は問いの補足で、第三段落からいよいよ冒頭の問いに対する作者の一応の答えが述べられます。第四段落では第三段落のまとめが書かれていますが、最後にそれがある意味否定されて、作者の「書くことと書物から書くことを学ぶ」という文言で締めくくられることに注意してください。

ポイントを抑えきれなかったという方は、もう一度読み直して、英文の中から重要な情報を取り出す練習や、大きな流れで文章を読む練習をしてみてください。

B 標準

災禍によって文明が終わるとしたら、という、混迷を極める世界情勢の中（そうあってほしくはありませんが）ホットなトピックです。難易度はさほど高くないと思われそうですが、設問自体が性質として大量の読解を要するものなので、慣れていない人や読解が苦手な人には難しく感じられるかもしれません。少しずつ慣れていきましょう。

(ア)(1)、(3)に関しては、: (コロン) が言い換えの働きをすることに留意して後ろの文と繋がりの良いものを探しましょう。(2)も文章の流れから自然なところですが。(4)は For example 以下の内容と d) 中の比喩が合いそうです。(5)は残ったものの中から g) が、文脈にも続く If 以下にも合います。(イ)に関しては、探す範囲が狭いうえ Shell という単語がヒントになっているので、確実に正解しておきたいです。

《第2問》 やや難～標準

A 標準

Creature は「生物」というより「創造物」の意味です！ Creature は神様が創造 (Create) したものだから生物、というのが語源のようです。そこに気が付けば、「状況は人間が作り出したもの」という話題に沿って文を作るのは、自らの経験や身近な例と絡めればそこまで難しくはないでしょう。そして難しく合っているかどうか分からない表現を使うより、確実に自分がよく知っている表現を使うことも大切です。英語での発信力も磨いていきましょう。

B やや難

とても固い言葉遣いで (せられる、など)、ともすると日本語でも何を言っているのかよく分からなくなりそうな文章ですが、頭ごなしの直訳ではなく、先ほど述べたように工夫を凝らして平易に書ける英文で書くことが大切です。そのためには、まず原文が何を言いたいのかを捕まえる国語の力が不可欠です。

《第3問》 易

東大入試と同じ形式のリスニングです。全体的に易しく、ここで高得点を取っておきたいところです。今回は聞き取りやすかったと思いますが、本番では様々な地域のアクセントのある英語が流れるので、耳を慣らしておくといかかもしれません。

A B C 易

《第4問》 標準

A 標準

文法事項だけではなく、文脈の理解も問われる問題です。短時間で確実に正答を出すのは難しかったのではないのでしょうか。自分の実力と相談しながら、あえて時間を他の問題に回すのも戦略の一つです。今回は最初の3つが文法に絡む問題、最後の2つが文脈把握を要する問題でした。少ない時間で誤っている箇所を判定するには、違和感や気持ち悪さを感じ取れることが大きな武器になります。今はそうでなくても、これから少しずつ感覚を培っていければよいのではないかと思います。

B 易～やや易

(ア)易。強いて挙げるとするならば、**That causes the isolation** の訳出の位置を工夫することでしょうか。解答例のように主語のように前に持ってくるのも巧いやり方です。

(イ)やや易。**Stem** が名詞として茎、幹を表す語なので、**Stem from** (～から発生する) を知らなくても、生えてくるようなイメージで推測して書けそうです。

(ウ)易。付帯条件があるので注意しましょう。**This** は第三段落第一文を指しています。先に述べたことですが、意識しすぎて原文のニュアンスを外してしまうことや、うっかり訳し忘れた箇所を作って減点されることのないようにしましょう。

《第5問》 標準

しっかりと読めば答えられる問も多かったと思いますが、いかんせん時間制限が厳しいので、とくに最初の大問から問題に取り組む人にとっては難しく感じたかもしれません。とはいえ、東大では第五問で口語形式の長い小説が出題されることが多いので、小説に慣れていない方もこれからの勉強で慣れていきましょう。

(A) やや易。**Were** や **Us both** など若干トリッキーな部分はあるものの、**Confuse O of~** と作れることに気付けば、方向性は立てやすかったのではないのでしょうか。

(B)易～やや易。意味は結構とらえやすいと思いますが、若干の工夫で素敵な訳が書けます。

(C)標準。**They** は **Questions** を指します。**Animate** の意味に苦戦した人が多かったかもしれません。

(D)(ア)易～標準。英語の口語的な使い方は勉強がしづらく、苦手としている方も多いのではないのでしょうか。余裕があれば、洋書や映画など、息抜きがてら生きた英語に触れてみるのも悪くないでしょう。

(イ)やや易～標準。本文中にヒントが散りばめられています。一通り流れを追っていて、なんとなく正解にたどり着いた方もいるかもしれません。

(ウ)標準～やや難。抑えなければいけない範囲が文全体に渡るため、時間内に解ききるのは難易度が高いかもしれません。

■理系数学 文責：松尾龍

総評：標準

全体的に取り組みやすいセットであったように思われる。ただし、制限時間内に全ての問題を解き切るのはなかなか難しい。(2)ができなくても(3)ができるような問題も多かった。できる問題を見逃さずに食欲に点を稼いでいく姿勢が必要とされたのではないかと。150分間集中し続ける体力を日頃の勉強を通して入試本番までに養っていこう。

第1問：やや難

合同式の理解を問う問題。(1)はぜひ解いておきたい。(2)では 4^k の扱いに困るかもしれないが、数学的帰納法を用いることで解消することができる。 $4^k=(1+3)^k$ として二項定理で解く方法もあるので、復習しておこう。(3)は a_n が5の倍数になる条件をうまく整理できたかどうかポイントである。 n^2 を3や5などで割った余りが限定されることは整数問題でたまに問われるので注意しておこう。

第2問：標準

面積を変数で表す問題。(1)は結果がグラフから読み取れるが、きちんと記述して確実に得点したい。(2)では一見 S を a で表せばよいと思いがちだが、そうすると計算が大変になってしまう。 S を t の式で表して計算をすすめよう。行き詰ったときに、この方向転換ができたかどうかポイントである。その後の方針自体は基本的なものである。値を確実に合わせよう。

第3問：やや易

存在範囲についての論証力が問われる問題。存在範囲の問題に習熟している受験生であれば、完答は容易であったろう。(1)では、条件を漏れなくまとめよう。序盤でのミスは大量失点につながるので、よく見直しをしよう。(2)は絶対に合わせたい。(3)は u を固定して S を v の一次関数とみることでうまくいく。

第4問：やや難

四面体とベクトルの問題。(1)は絶対に合わせたい。(2)は証明しづらかったかもしれない。 α に関する共面条件とベクトルの一次独立を利用する問題であった。(3)は内積の計算から三角形 OBA が定まる。

第5問：やや易

関数と極限の問題。各小問とも、やるべきことは明確である。微分の方法や極限の公式がまだ定着しきっていない受験生も多いとは思いますが、入試の頻出分野なのでこれを機に覚えきってしまおう。また、三角関数の扱いにまだ慣れていない受験生は今のうちに身につけよう。(1) $f''(x)$ を正確に求めよう。変曲点の定義を知っていることをアピールする答案を書こう。(2)(3)極限の公式を使うことを意識しながら式変形すると解きやすい。

第6問：標準

集合と漸化式の問題。問題文が長いので読み忘れがないようにしたい。(1)簡単な問題。次の設問の誘導になっている。(2)漸化式的に集合を捉えることができるかどうかポイントである。丁寧な説明を心がけよう。(3) a_n だけについての漸化式が作れることに気付けば、後は基本問題である。時間がなくてもあせらず正確に計算をしよう。

■文系数学 文責：吉田

総評：標準

全体的に典型的な解法のもので出題されていました。本番までにしっかり復習をして解き切るようにしましょう。また、今回は標準的な問題が比較的多かったように思われますが、難しそうな問題が多かった時には、どこで時間を割くか、どの問題に焦点を当てて解き切り着実に点を取るかを見極めるようにしましょう。

第1問 やや易

すべて基本的な計算問題です。本番では、なるべく短時間で解答し、かつ必ず落とさないようにしたい問題です。今回間違った方は、どこでなぜ間違えたのかしっかり復習し、本番に備えましょう。

(1) 平易な問題です。得点しましょう。

(2) 平易な求積の問題です。積分の問題では、正しく図を描くことを意識しましょう。また、計算ミスが多くなる積分の計算では、今回の D2 の面積の計算のように、計算の工夫を日頃から意識しましょう。

(3) 三次関数の増減の問題では、微分後の係数の正負に注意しましょう。また、今回の問題では、最小となる時の a の値を代入したときに計算が複雑になるので、解答解説では計算の工夫がしてあります。

第2問 標準

数列や整数の問題では実際に書き出してみることも一つの方法だと思います。時間がなくても落ち着いてしばらく書き出すと、具体例から規則が見えると思います。今回は数も小さく書き出してもすぐ見つかるので、得点したい問題です。

(1) この問題では書き出しも有効です。

(2) 余りの周期性を意識した標準的な問題です。別解にも目を通しておきましょう。

(3) 証明問題では、それまでの小問を踏まえた問題も多いので、大問の全体の構造を意識しましょう。

第3問 標準~やや難

図形と式の問題では、どの条件を数式化し、どの順に式を利用するかが肝だと思います。この問題も含めたくさん演習をしていきたいです。また、自分が書いた図に縛られないように気をつけましょう。

(1) 図形の特徴をうまく数式に直す良い練習だと思います。別解も見てください。

(2) いかにかに未知の文字数を必要最低限に設定するかが図形と式の問題では重要になります。今回の問題では、(1) で求めた式と図形の特徴を上手く利用します。

(3) 相似の利用にはなかなか気づきにくいと思います。これを機に解法の選択肢の一つとしてインプットしておきましょう。

第4問 やや難

2020 年の東京大学入試でも出題された細かい場合分けが要求された問題です。場合分けが多いとひるみますが、ここは丁寧に場合分けすることが得点への鍵だと思います。解答を書き出す前に、異なる事象を一度じっくり場合分けし、検証しましょう。

(1) 場合分けや確率の問題でも、最初の問題は解きやすいことが多いと思うので、頑張って解答しましょう。

(2) 複数の事象が重なる時は、場合のもれとだぶりに注意して分析しましょう。

(3) ベン図の利用はオススメです。余事象を上手く利用しましょう。

■国語

第一問 文責：平井

総評：標準

引用の多い文章で、戸惑った方もいると思いますが、問いに関しては、基本的に傍線部を分析し、今回複数の問いで聞かれていた、指示語の指す内容を的確に捉えることができれば、大きく減点されることはないかと思われます。押さえるべきポイントは比較的わかりやすいですが、それを分かりやすく言い換えることに苦労した人は多いかもしれません。

(一) やや易

1 段落の冒頭から傍線部までの要約整理が求められた問題で、指示語の説明と「邂逅」の言い換えの 2 つが必要となっていました。指示語については、前半の「『正しさ』を押し付けられなくても、目を背けはしない」、そして後半の「互いに自らの正しさに確信があるという事実を受け入れ対話に臨む」という 2 ポイントを整理しましょう。「邂逅」の説明は、冒頭で書かれているので、そのまま用いてもらって構いません。

(二)標準

傍線部を含む一連の文章と、それを受けての5段落前半の内容の理解を問われた問題です。一連の会話文で、「ほんとうの神」についての理解に食い違いが起きていることを捉え、その食い違いが、2人の信じる「神」の違いからくることを5段落の前半で押さえ、説明してください。

(三)標準

6段落と、7段落の「ほんとう」に関する記述までの文章の内容整理が問われた問題です。

「どういうものか」と問われているので、(ウ)直後の『ほんとう』というときの『ほんとう』の「性格」を押さえたうえで、6段落の『ほんとう』の『ほんとう』の説明を参考にしながら、わかりやすく説明しましょう。

(四)やや易～標準

指示語の内容把握と、冒頭から述べられている「自己否定」についてまとめることが要求された問題です。「そんな背理」とあるので、論理に反するというニュアンスを含めたうえで、指示語の指す内容を整理し、その内容と、それに通じる「自己否定」の考えをうまくつなげて説明するとよいでしょう。

第二問 文責：山内

総評：標準

古典に頻出のテーマである「無常観」を題材にした出題でした。本番同様分かりにくい単語には注が多く振ってあったこともあり、読みやすかったのではないかと思います。ただ、解答をまとめるとなると歯応えのある設問が多く、差がつく問題でした。古典にありがちな発想や文法事項も多く登場するのでしっかりと復習しましょう。

設問一：標準

傍線部ア：「ひねもす」の意味を知っていればあとは容易でしょう。「春の海ひねもすのたりのたりかな」という有名な句もあることですし、解けた人は多かったのではないかと思います。二重否定は頻出の構文なので大丈夫だったかと思います。

傍線部ウ(理科はイ)：「させ給ひ」が二重敬語であることを見抜けるかがポイントです。「いつく」から解答例のように「かしづく」という訳語を出すのはむずかしかったかもしれませんが、この機会に覚えてしまいましょう。現代語ではたとえば世界遺産の厳島(いつくしま)の語源がこの動詞と言われています。

傍線部オ(理科はエ)：意味はなんとなくわかった、という人もいたのではないのでしょうか。「思ひをとむ」をきちんと現代語に噛み砕けたかがポイントです。助動詞の解釈は難しくなかったのではないかと思います。

設問二(文科のみ)：標準

「そぞろに」さえわかれば現代でも頻繁につかわれる「断腸の思い」からの類推で訳せたのではないかと思います。解答例のように「寂しさ」のニュアンスをいれるのは少し難しかったかもしれません。

設問三(理科は二)：標準

傍線部が何を意味しているのか、そしてどこをまとめれば良いのかということはわかったかと思います。ただ、解答欄に収めるように簡潔にまとめるのには苦勞した人もいたのではないのでしょうか。この要約の力は英語の第一問などにも生きてきますので、思うようにできなかった人はしっかりと復習してください。

設問四(文科のみ)：やや易

これまでの文意が分かっているならば、決して難しくはなかったはずですが。歌自体を文法的に厳密に解釈できていなくても、この文章のテーマである「無常観」を抑えていれば趣旨を説明することは容易だったのではないのでしょうか。

設問五(理系は三)：やや難

文章自体の解釈は問題ないでしょうが、その理由となるのが最終段落のみであることに気づけたでしょうか。これまでの流れにだけ頼って解答するとこの世が無常だから～などを書いてしまいそうですが、解説にもあるように「いとど」から無常観を前提としつつもそれ+ α の理由があり、そこを答えなければならないということに気づけたかがポイントでした。

第三問 文責：山内

総評：やや易

ストーリーが単純で論理も難しくないため、読みやすかったのではないのでしょうか。難しい単語もなく、設問も文意が取れていれば答えられたのではないかと思います。

設問一：やや易

傍線部 a：「数」を解釈できたかがポイントです。他の単語は現代でも使われているものばかりであり、簡単に訳せたでしょう。

傍線部 b：現代語でも「式辞」「送辞」「祝辞」など「辞」を「のべる」の意味で使うことはあり、文脈を考えても類推は容易にできたのではないのでしょうか。

傍線部 d：「全」を動詞としてとれたのでしょうか。あとは細かい表現の差こそあれ解答例のように訳すことができたはずです。

設問二：標準

解答の根拠となる部分が全文の最後にある点は少しトリッキーかもしれませんが、先に全文を読んでいた人はすぐに答えることが出来たのではないのでしょうか。主従などの上下関係を親子や兄弟に例えるのは儒教の基本の考え方で、古典では定番です。

設問三(文科のみ)：やや易

「非不能更葬」の部分は否定が多く少し読み解きにくかったかもしれませんが、落ち着いてやれば意味はすぐ取れるはずです。逆にそれさえできてしまえば後はほぼ注の意味を代入するだけであり、容易に解くことができたでしょう。

設問四(理科は三)：やや易

直前の「故」から因果関係を見抜けるかがポイントですが、これは皆さんなら大丈夫でしょう。その後は章子の発言内容を少しまとめて書き下すだけであり、特段難しい単語や文法も使われていないのでよく出来た人も多いのではないかと思います。

第四問 文責：安井

総評：やや易

平易な表現の多い随筆で、文章としては読みやすかったのではないだろうか。四段落冒頭の一文で提起した内容を、具体例を交えながら本文全体を通して述べていることに気づくと内容把握もしやすかったことと思う。第四問と言えど、抽象と具体の文構造を見極め本文に即して設問に答えれば十分得点できる問題であった。

(一) 標準

どうということかの説明問題であるので、傍線部中の「単に静か」な状態とそれより「もっと静か」な状態についてそれぞれ説明をしてやる必要があった。前半部については、直前部の「～だけでなく」という表現が傍線部中の「～であるよりも」と対応していることに気づけばその前の内容を指しているとわかる。後半部については、前半

部の指す「生きてるときでも」の表現から、その逆の場合がどのようなものであるかを考えたい。

(二) 易

理由説明問題であるが、その根拠は全て十二段落に書いてあるため十二段落の内容をまとめればよい問題であった。まず筆者が否定した内容を把握し、それに対する筆者の否定的意見、そしてなぜ筆者が怒ったのかということについて順に考えていくとよいだろう。

(三) 標準

十三～十九段落の内容を整理する問題。十三段落からいったん擬人化について述べ、時計の具体例をはさんで十八、十九段落において十三段落の内容を否定しているということを把握できれば、筆者の「一方的な想像」が時計の擬人化のことであり容易に検討がつく。「つながり」というのは十三、十七段落で言及されていることを参考に端的にまとめよう。

(四) やや易～標準

二十段落の内容を整理しつつ、最後の設問であるため文章全体の主張に関わってくるころであった。本文で一貫して述べていることは何であったか、四段落に戻って考えるとともに、(二)と同内容の記述にならないよう留意して二十段落の内容を中心に答案を作成するとよい。

■物理 文責：大橋

総評：やや易

構成としては第1問が力学、第2問が電磁気、第3問が熱力学というオーソドックスなものでした。模試の開催時期を考慮して早くに習う範囲から出題する大問もありました。それも含め、基本的な理解を問う問題が多く、全体的な難易度としてもやや易しめだと思います。とはいえ、なんでも定量的に求めようとするのではなく、いわば定性的に、俯瞰的に現象を捉える能力を問うような問題も幅広くあったので、復習により実力向上につなげたいところです。

第1問

I：易

張力を含めはたらく力を正しく書ければ容易に答えられると思います。

II：やや易

2物体が動きますが、糸による束縛条件を考えれば関係を把握するのも難しくないはずです。(1)、(2)での、変位や仕事の正負のミスは命取りです。気を付けましょう。(2)で、張力が仕事をしていないという結論を難なく出せた方は、BとCからなる系の力学的エネルギーの保存から(3)も坦々と答えを出せたことでしょう。

III：標準

この問題では3物体が動くので、それぞれの物体の運動の記述が複雑になりそうだと考えパスした方も少なからずいることでしょう。しかし、3物体の運動とはいえ、前問の「物体Cの速さを求めよ」のようなそれぞれの物体の運動についての問いはありません。運動方程式をそれぞれの物体について立てて解くという1つの方法に偏重するのではなく、全体を通して運動の様子を把握する俯瞰的な視点も欲しいですね。特に(3)を定量的に解くとなるととても煩雑になるので、全てを1つの系とみたときの力学的エネルギーの保存から、重力による位置エネルギーが減少していることに気づきたいです。

第2問

I：やや易～標準

電場・電位の基本的な問題に始まり、円運動や力学的エネルギーへと話を展開する問題でした。(4)で「電磁波の放射によるエネルギーの減衰」という馴染みの無いトピックが登場し敬遠した方もいるかもしれません。しかし、その前の小問を正答できていればスムーズに考えることができたことでしょう。エネルギーを失っているにも関わらずどんどん速くなっていくという結論は直感に反しますが、式を根拠に自信を持って答えたいですね。

II：標準～やや難

「代わりにある電荷を置くことで同様に扱える」という、見慣れない方が多いであろう方法を扱う問題でした。全く見たことが無くてもすぐパスするのではなく、問題文の説明から意味を理解し、できるところまで解き進めたものです。運動中の任意の状況を解析するというより、最初と最後を比較するといった大きい視点を持つことを要求されました。

第3問

I：やや易

2つの気体の状態変化を扱う問題ですが、恐れることはありません。Aは断熱変化、Bは定温変化、体積変化も単純、過程がたくさんあるわけではない、という比較的考えやすい設定だったと思います。ピストン1にはたらく力のつり合いから正しく圧力を記述できればスムーズに解答を進めることができるはずです。

II：やや難

3つの気体の状態変化を扱う問題でした。少なくとも(1)は前問とほぼ同様の手順で求められるので取っておきたいです。(2)については、定量的な方法も不可能ではありませんが、 α を1に近づけたときに圧力が限りなく大きくなることから、下に凸、右上がりの曲線を選ぶ、という方法が最もスマートではないかと考えます。(3)についても、過程iと状態iiの比較で答えまでたどり着けます。全体的な現象の把握ができていないかが問われた問題だと言えるでしょう。

■化学 文責：酒井

総評：やや易

有機化学、無機化学、理論化学の東大型の三問構成です。全体的に難易度は低めで、基礎さえできていれば非常に得点を重ねやすいセットですが、逆に基本事項に抜けがあると大きく失点しかねません。時間配分を考えれば大問二、大問三の順に解き、大問一の構造決定に時間を割くのが効率的でしょう。

第一問：標準

実験データから有機化合物の部分構造を推定し、知識に基づいて組み立てていくという定番の問題です。まずD,Eは容易に決定でき、ここからF,Gを、さらにJを導くだけですが、作業量がやや多いので時間配分には気を付けましょう。キは対称面に注意。クもモノマーで比較すれば容易です。また、核磁気分光法(NMR)が耳慣れないかもしれませんが、解答導出には直接の影響はありません。

第二問：I：易 II：やや易～標準

I

教科書に載っているような基本的な電気分解に関する問題で、時間との兼ね合いにはなりますができるだけ落とさないところです。

Aが解けなかった受験者は電気化学の基本を復習しましょう。

I～Oについては、各イオン交換膜の種類に注意して、移動したイオンの種類とモル数を図に書き込めば自ずと答えが出るはずです。

II

酸化還元滴定を題材にした問題です。

カは条件に従って電子を埋めればよいでしょう。ただし硫黄原子の電子配置は必ずしもオクテット則をみたさないということは頭にとどめておきましょう。

キ～ケはどれも基本的なイオン反応式を求める問題ですが、クでビス（チオスルファト）銀（I）酸イオンを知らなかった人は、錯イオンを復習するとよいです。

コは単なる計算問題です。

第三問 I：やや易 II：標準

I

結晶格子に関する問題です。ほとんどが知識問題か計算問題で、高度な思考力を問う問題はありませんから、なんとしても取っておきたいところです。

ア～ウが知識問題に当たります。どれも高校化学の超重要事項ですので、万が一にも間違えてしまった人は教科書などで復習しましょう。

エとオは計算問題です。慣れていないと時間が足りなくなってしまうかもしれませんので、日ごろから計算に慣れておきましょう。

II

二量体の平衡と分配係数に関する問題です。与えられた数値の処理、モル濃度の概念の理解、そして平衡の理解が正しくできていることが求められます。さして計算も煩雑ではないため、Iとあわせて高得点を、特に化学の力量に自信のある受験者なら満点をとりたいところです。

カは基礎知識です。ベンゼンが水より低密度で揮発しやすく、基本的には反応性に乏しいため溶媒としても用いられることは当然知っているものとして出題されますので、おさえておくとよいでしょう。

キはどの酸素とどの水素がペアをつくるか正しく把握していることが求められます。本問では知識がなくても容易に解答できますが、東大化学と解く上では前提ともなるべき知識です。例えば同様の水素結合がサリチル酸の酸性度の強さに寄与していることなどがよく問われます。

ク、ケは計算問題です。平衡定数からモル濃度を求めることやその逆はよく問われるので、慣れておくとよいでしょう。

■生物 文責：平井

総評：やや易～標準

考察問題の難易度は比較的易しめとなっていて、考察問題にかかる時間が取れなくても、それぞれのリード文、問題文に記載されていることを見落とさなければとれるような問題もいくつかありましたので、自分のテスト中の解き方を見直す機会になった人も少なくないのではないのでしょうか？時間制限の厳しいなかでも、リード文や問題文をきちんと読むことの重要性が分かってもらえるような問題だったかと思われま

第1問 標準

I.考察問題が易しめなので、この時期でもC,Dの2つは取っておきたかった問題です。

A あまり問われることの無い知識で、覚えていなかった人もいるかと思いますが、これを機に覚えておきましょう。

B 性決定様式については非常によく聞かれますし、問われる動物も殆ど決まっているので、押さえておきたい知識です。

C 文中の、生殖腺、内性器に関する記述を落ち着いて読みましょう。

D これも単純な考察問題なので取っておきたいです。

II.リード文を焦らず読むことができれば、E,F,Hは取ってほしかった問題なので、ここら辺を落としてしまった人は、リード文、問題文だけは丁寧に読む癖をつけるようにしましょう。

E リード文前半に記載されている事柄を一つ一つ整理して考えたいです。

F(1)～(6)の真偽を確かめるために、どの実験どうしを比べれば良いか、冷静に判断しましょう。

G.Nタンパク質とSタンパク質をそれぞれ単体で加えたときよりも2つを組み合わせた時の方が、発現量が大きくなること、そして文章中の「Nタンパク質がSタンパク質と結合する」という記述を組み合わせで考えましょう。フィードバックを書く際は「正」「負」を書き忘れないように注意しましょう。

H.問題Eの「TESCO配列の変異」の記述が大きなヒントになっています。

I「TESCO配列の変異」によるS遺伝子の発現促進の低下からの、他の遺伝子産物と他の配列が影響しているのではないかという発想の転換を問う問題ですが、そこまで考えるのは少し厳しかったかもしれません。

第2問 やや易～標準

実験5までであり、実験結果を整理するのに苦労したかもしれませんが、その分一つ一つの実験は理解しやすいものになっていて、Hまで解きにくい問題は少ないと思われるので、落としてしまった人は、まずは時間を意識せず最後まで解き切るよう復習に務めましょう。

A.B.C.植物ホルモン、受容体については、それぞれの役割は必ずと言っていいほど聞かれることが多いので、名前だけでなく、関与する現象までしっかりと理解しておきましょう。

D明らかに間違っている考察を選ぶ問題は、比較的出題されやすいので、間違えてしまった人は、このタイプの問題を多く解いて慣れていくようにしましょう。

Eここは取っておきたい問題です。

F選択肢が2つごとで対応しているので、一つ一つ確認していきましょう。これも取っておきたい問題です。

G実際に実験をする際に重要となります。ここも押さえておきたい問題です。

H今までの問題の結果をつなげる形になるので、ここまで解けた人は取っておきたい問題ですが、解き切れなかった人は、時間をかけて、解けるようにしておきましょう。

第3問 やや易～標準

I被食者、捕食者をテーマにした個体群に関する問題は、模試や過去問でも度々聞かれることがあるので、出来不出来に関わらず、入念に復習してほしい問題です。

AB「個体群」に関する問題で聞かれることの多い知識です。押さえておきましょう。

C環境の悪化と密度から考える問題ですが、取っておきたい問題です。

D自分で具体例を想像して、順に追っていくと考えやすいです。

Eこれは取っておきたい問題です。

II先述のようにこちらもリード文、問題文にある記述が大きな手掛かりとなるので、よく読んで、解いてほしい問題です。

F非常によく問われる知識です。押さえましょう。

G考え方自体は簡単なので、計算ミスのないように注意しましょう。

Hそれぞれの動物門に属する代表的な動物は、聞かれることが度々あるので、自分なりにまとめて覚えておきましょう。

I問題文にあるとおり、「防衛能力」、「増殖力」と「変動周期」の関連を考えてほしかった問題です。

■世界史 文責：角田

総評：標準

全問を通じ、奇を衒ったり細かすぎる知識を問うたりするような問題は見られず、幅広い分野、時代、地域について問おうとする、東大らしい出題がなされていたと思います。特に第一問は同時代における異なる地域の記述をさせる、「横のつながり」を意識した問題で、東大大論述の典型ともいえる問題だと言えます。第二問、第三問においても、正確な知識の蓄積で対応可能な標準レベルの問題が並んでおり、学力が得点に素直に反映されるのではないのでしょうか。

コロナ禍にあり、現役生の皆さんは特に休校などによる進度の遅れのあおりを受けやすいと思いますが、既習範囲を固め、この時期でも取れるところでは確実に点数を重ねていく姿勢が大切です。当然既習範囲は広がる一方にあるので、先取り学習に焦らず、復習による知識の定着を盤石なものにしていけば、おのずと得点も向上していくと思われます。得点できなかった理由を見極め、今後に生かしてください。

以下大問毎に見ていきます。

第一問：標準

これは解答解説においても言及のなされていることなのですが、東大の第一問はリード文に答案作成の指針が示されていることがほとんどです。今回の場合だと、回答しなければならない「ユーラシアの政治状況の変化」と「西ヨーロッパの社会変化」の概要がリード文に述べられています。テーマが漠然としているように思われますが、実は回答の方向性は一意に定まるようになっています。みなさんは答案作成の上でリード文を意識できたでしょうか。リード文を単なる装飾だと思わずに、意図を汲もうとする姿勢が大論述攻略の上での大きな鍵になると思います。

先に述べたように本問は「横のつながり」を問う問題です。東大入試では今回のように、14世紀の危機(問題の設定「14世紀」と指定語句「黒死病」から辿り着きたい)を同一の原因としたユーラシア全体の社会変動と同時に、東西交流が黒死病蔓延の原因となる...というような同時代性を扱うことが非常に多いです。この「横のつながり」を意識しながら教科書を読み込んだり、図説にある各時代の勢力分布を抑えたりすることは世界史の学習の上で非常に重要です。

今回は既習範囲内に収まる大論述を解く初めての機会だったという人も少なくないでしょう。現段階ではなんとか600字を稼いだという感覚がしたかもしれませんが、徐々に知識に厚みがつけば答案作成上での選択肢が広がるし、何より慣れで書けるようになるものなので(案外と)、今後も臆せず積極的にトライしていくといいと思います。

第二問：標準

第二問は2~3行程度の論述がほとんどで大論述のインパクトに比べれば取り組みやすいと感じる人が多いかもしれませんが、しかし、マクロな視点で記述すればよいのである程度「ごまかし」が効いてしまう大論述の第一問に比べ、時代、地域を細かく指定してくるミクロな第二問は、正確で緻密な知識がないと太刀打ちできません。既習範囲の問題でも点数が伸び悩むという人は、教科書の読み込みはもちろん、用語集のように各出来事、人物の完璧な説明が可能かどうか一つ一つ検証していくことが大切です。文章構成力も実力として加味される第一問に対し、知識重視の第二問といった感じでしょうか。

問(1):やや易

商業「革命」の内容となれば、当該地域が革命によって如何に変化したかを述べることになります。この時、変化前の状態を書くことを忘れがちなので注意しましょう。商業革命そのものは頻出なので、模範解答を商業革命の説明としてそのまま頭に入れてしまっても今後役に立つと思います。

問(2)(a):やや易(b):標準

(a)まずは与えられた地図を徹底的に見ましょう。地点Aがどこか確認しただけという方もいるかもしれませんが、それ以外にも回答の上で重要な情報が含まれています。地図の宗主国での塗り分けです。これをみればイギリスとフランスがそれぞれ縦断政策、横断政策を取っていることがわかり、地点Aの位置だけでファショダと判定できなくても両政策が衝突したファショダ事件が問われているのだと理解できます。また、回答作成上で経緯として組み込めます。このように、問題で与えられるデータ、地図に無駄なものは一切入っていないので、すべてに意味づけしてみる姿勢が大切です(地理でも同じです)。問題としては頻出で、フランスの妥協が英仏を接近させ、ドイツに対抗した英仏協商に至る、というところまで丸暗記してしまってもいいと思います。

(b)経緯としてスタンリーのアフリカ探検を思いつくというのはなかなか難しいことだと思います。ただ、列強のアフリカ分割をめぐる対立をドイツが仲裁し收拾させたベルリン会議(1884)の意義は頻出なのでおさえておくべきで

す。

問(3)(a)やや難(b)標準

(a)手薄になりがちな中南米の、それもキューバとなると臆してしまうかもしれませんが、まずは 19 世紀末~20 世紀初頭という設定を見て当時のアメリカの外交姿勢を考えてみると、正解に辿り着きやすくなるのではないのでしょうか。フロンティアの消滅後にアメリカが外交姿勢を一転し帝国主義政策を本格化させたというのは、門戸開放宣言をめぐる中国分割の話にもつながるので、忘れないでおきたいです。

(b)本問のように要衝(パナマ地峡、ホルムズ海峡等)の支配勢力の変遷は頻出なので、各時代の勢力分布で推察するのもいいですが、暗記してしまっても損はないと思います。

第三問:やや易

第三問はひっかけ問題や、載っている教科書が 1,2 しかないマイナー語句を問うことがたまにありますが、たいていはやはり東大らしく重要語句を淡々と問うてきます。しかし、たとえ答えが超有名語句 or 人物であったとしても、普段とは全く異なる視点から尋ねてくる場合があります、問題文の検証や、第二問ほどではありませんがやはり正確な知識の蓄積がモノを言います。公式の配点は定かではありませんが(一点説、二点説、正答率で問毎に変動する説等々...)、ほとんどの合格者が多くとも 2 ミス程度で切り抜けていくので、ここでミスを重ねることのダメージは大きいです。極力時間をかけたくない大問ではありますが、一問一問丁寧に拾っていきましょう。教科書に加え一問一答も有効な対策となるでしょう。

問(1),(3):やや易、問(2):易、問(4)-(10):標準

問(4)スルタンと誤答した人は今一度アッバース朝と諸イスラーム王朝の関係性や、それぞれの王朝の性質を理解し直しましょう。スンナ派のアッバース朝にとってシーア派のブワイフ朝はどのような存在であったか...などを理解すればこうした問題での誤答を防げます。

問(6)公安委員会の設置のみならず、革命暦の採用や徴兵制の導入といった変革もまとめて頭に入れておけば第二問などで問われた際も対応できます。

問(8)ロシア革命期の政党はややこしく、ここで立憲民主党などの誤答をする人もいるのではないのでしょうか。政党と所属した人物を紐づけて覚えておくことが大切です。社会革命党・ケレンスキー、ボリシェヴィキ・レーニン、立憲民主党・リヴォフ公(特に「公」が党首なので、ブルジョワ政党だとわかります)などが挙げられます。

問(9)解答解説にニューディール政策の内容と特色が網羅されているので是非ともすべて頭に入れてしまいましょう。それに尽きます。

■日本史 文責:石原

総評:やや易~標準

全体的に書きやすいセットだったと思います。本番の問題では時にどういう論理で組み立てるかの骨組み自体なかなか見えてこない難しい問題も出されますが、今回の模試はそのような難点はほぼなかったと言っていいでしょう。つまり、取るべきポイントを着実に取れたかが明暗を分けるセットです。

第一問:やや易

かなり取りやすい問題だなあという印象です。まず、問題文の要求がかなりストレートですね。二つの説と根拠をそれぞれ述べる、それだけです。一瞬で論点は 4 つだとわかります。そしてヒントとなる文章の読み取り、これもかなり簡単です。

まず一つ目の説について。1 の段階では天子だったのが 2 で天皇になっている、この段階で推古朝であることは察しがついたことと思います。因果関係を推測するのも、煬帝のエピソードを知っている人にとってはあまり難しいものではなかったでしょう。

次に二つ目の説について、これもほんの少しまずきポイントのようなものはありますが、回避するのは容易です。3でもう一つの説の時期が天武朝であることはピンと来たと思います。中央集権化の進行と天皇号の使用、つながる感じがしますよね。4が根拠になっていることも明白です。ここで「紙より再使用に適したもの」という言葉にちゃんと反応できたでしょうか。荷札と一緒に出土したことからも分かるように、木簡ですよ。簡単な問題では神は細部に宿ります。しっかり気づき、にやりと笑いながら明示出来たでしょうか。最後に5、これはちょっと使いづらかったかもしれませんが、皇后=天皇の正妻ときちんと読みかえられれば、それが令によって正式になった、つまり制度として定められたというニュアンスを読み取るのもさほど困難ではありません。

まとめると、4の木簡、そして5の抽象化、本番であればこのあたりで差がつきそうです。簡単な問題ほど手堅く取っていきましょう。

第二問：

A：易

ハイパー基本問題です。ここが押さえられていないとすれば、それは中世の日本史を全く押さえられていないのと同義と言っていいでしょう。東大受験生なら、ノーヒントでも満点が欲しいところです。あえて指摘するなら、(2)の文章から読み取れることに限定するという問題の指定を禁欲的に守りましょう。緊張状態の下での「書ける！」という確信は、第一問でもそうですが、かなり危険です。問題文に忠実に。これを常に忘れないでくださいね。

B：標準

Aと同様、中世の日本史を学ぶ上で絶対押さえておくべき至って標準的な内容の出題です。Bの事態を理解する前提としてAの理解も必須だから、Aはハイパー基本と表現したのです。ただ、三行のうちに必要な諸要素を漏れなく盛り込むのはちょっと難しかったかもしれません。しっかりした理解と、簡潔な表現のストックを持っていることが必要な出題だったと思います。よく言われるように中世はかなり流動的な時代で、こと土地制度などに関しては、他の時代のように整然としたものとして理解しようとすればするほど混乱するという経験をした人もいます。それでなんとなく苦手意識を持ってしまいがちなのですが、今後学習を進めていけば分かるように、実は受験生が理解すべき事態はそれほど複雑ではありません。解答解説を熟読して、苦手意識を払拭してしまいましょう。

第三問：

A：標準

既存の知識の段階で書ける内容が多すぎるがゆえに困ってほしい問題です。ヒントの文章を与えられておいてなお三行をヒイヒイ言いながら埋めたというのでは、日本史の力以前に、論理的思考力と発想力の点でちょっと心もとないですね。

ヒントの文章自体も割と親切です。(2)で貨幣経済の浸透についてちゃんと言及してくれているのなどは、本番では消されていてもおかしくない補助線だと思います。一方で、講について言及するのはなかなか難易度が高かったかもしれません。この機会に新たな視点を手に入れるというのでもいいでしょう。

この問題で最も重要なのは、やはり問題のヒントの文章で示されていることに忠実であったかです。東大日本史は知識の陳列パーティーではありません。たいていの場合問題文やヒントの文章がある程度解答の方向性を示唆しています。くどいのは重々承知で、あくまで設問に忠実にということ強調しておきたいと思います。

B：標準

問題文とちょっと向き合ってから、主な論点は2つだ、ということ意識できたでしょうか。つまり、(5)の理由を述べるには、従来通行手形が必要とされた理由、そして必要がなくなった理由、の二つに触れる必要があるということです。まずはなんだ当たり前のことじゃないかと思えてください。そしてそのような人でも、それを意識

できたかどうか注目してください。当たり前の思考の働きを、なるべく明確に意識して駆使できることは、未知であったり発展的であったりするような問題を解くうえでとても重要です。

内容面では、一つ目・二つ目の理由、および「義務」は、割合すんなりわかったことでしょう。割拠性という単語で名指されるような事態にまで踏み込めるとカッコいい答案になりますよね。(4)の「混在」に敏感に反応できていると見えてくる視点ですが、大きく差がつくポイントというわけではなかったでしょう。

第四問:

A: やや易

大日本帝国憲法の発布、これはまず間違いなく浮かんだと思います。そこからヒントの文章をどう読んでいくか。旧幕府の要人を招いた記念祭や、新政府への反逆者に対する恩赦、これらは比較的分かりやすいですよね。上野行幸が若干分かりにくかったかもしれませんが、これも新しい統治者としての天皇の姿を臣民に周知させる機会だった、というニュアンスを捉えられた人は少なくなかったのではないのでしょうか。

もう一点、問題には直接かかわりはありませんが、政府が諸々の政治的対立を議会開設までに解消しようとしたという説明が解答解説に載っています。なぜ議会開設がターニングポイントとして捉えられたのでしょうか。議会は政府にとって必要不可欠でありながら、その特性からして政府をズタボロにしうる、ジレンマだったということが関わっています。ピンとこないという人は、必要不可欠とズタボロ、この意味がわかるように調べて、考えてみてください。日本の近代化にまつわる政府の苦悩は近代を学ぶ上でとても重要です。

B: 標準

伊藤博文の懸念については難しくありません。1890年前後という時代背景から藩閥政府と初期議会、この二つのフレーズがパッと浮かんだことでしょう。初期議会で政府がかなり攻撃されていたことを知っていれば、そして、「八月十八日の政変」や「禁門の変」が薩摩 vs 長州のものであったこと、長州藩に至っては朝敵の烙印を押されていたことを補助線にすれば、主に薩長出身者で構成される藩閥政府が天皇を擁立しながら民党に対抗する上で、結束力や正当性を保つ必要があったと考えるのは不自然ではありません。

ここでもひとつ、直接問題に関係はしませんが、シュタインの「国家の歴史を明らかにすることが不可欠である」との言には注目してみたいですね。なぜ不可欠なのでしょう？日本が目指した近代国家、もうすこし射程を絞って言えば国民国家にとって、歴史が持つ意味とはなんなのでしょう？一つの問題から少しでも多くのことを学び取るのは、受験において最高度に有効な方法です。ぜひ点検してみてください。

■地理 文責：高澤

総評：標準

全体的に基礎的な知識を問う問題が多く、地理の勉強が進んでいる受験生にとっては解きやすい模試だったのではないかという印象を受けた。また、単に知識を詰め込んだだけでなく、その裏の背景やメカニズムまで理解しているとより高得点が狙えただろう。この段階では、英数に力を注いでいるために地理にまで勉強が届いていないという受験生も多いかもしれない。焦らずに少しずつでも基礎知識と地理的な思考力を身につけてほしい。

〈第一問〉：やや易

第一問総評

自然環境と人間活動の関係に関する問題が出題された。東大ではこの両者の関係について繰り返し出題が見られるため、普段の学習から意識できると良い。設問Aは気候と農業の関係が、設問Bでは地形と漁業(養殖業)の関係が問われた。共に基礎的な知識があれば高得点が狙えた問題である。

設問A：やや易～標準

(1) アとエの判定は絶対に落としたい。イとウの判定で迷った受験生がいたかもしれないが、豪州東岸を流れる暖流とグレートディバイディング山脈の位置関係を考えれば正解にたどり着ける。地形と気候とは切っても切

れない関係にあることを意識しよう。

(2) 熱帯気候における農業についての基本的な問題である。赤道直下は年中が高温多雨でやせた土地になりやすい。そのために草原や森林に火を入れて生じる灰を肥料にする必要がある。

(3) エルニーニョ現象に関する基本的な知識が問われた。解けなかった受験生はエルニーニョ現象のメカニズムと影響を復習しておこう。この問題では「海流 X の変化」「それによる気候の変化」「それによる農業への影響」の三点が求められる。論理的な文章を意識して解答を書くことが重要である。豪州だけでなくアメリカ周辺や東アジアでの影響も合わせて確認しておこう。

(4) ソバの生産について問われた。地理の問題で問われることは滅多にないため面食らった受験生がいたかもしれない。日本で有名なソバとして信州ソバ（長野）やわんこソバ（岩手）が想起できればソバの生産には冷涼な気候が適するのではないかと推測できるが、少し難しいか。この冷涼な気候という点が「特に d の周辺が有利な理由」だが、それに加えて南半球であることを活かして北半球の国々の端境期に出荷するという論点も書けると良かった。こちらは頻出なので確認しておこう。

設問 B：易

(1) リアス式海岸を答えさせる問題。絶対に落とせないところ。フィヨルドと紛らわしい部分があるが日本でフィヨルドが大規模に発達するのは考えにくい。

(2) リアス式海岸の形成過程について問われた基本的な問題。リアスだけでなく特徴的な地形の形成過程はしっかり確認しておこう。

(3) 山地が沈水したという形成過程が分かっているならば自ずと解答が見えてくる。「水深が深い」「波が穏やか」「山地に近い」といった基礎的な特徴がもたらす利点を論理的に記述すればよい。

〈第二問〉：標準

第二問総評

設問 A では産業とその変化に関する標準的な問題が、設問 B では関連して産業の立地について論理的な考察を必要とする問題が出された。勉強が進んでいない受験生は苦戦したかもしれない。ミクロの視点、マクロの視点をバランスよく持ち、近年の産業の状況を押さえることが大切である。

設問 A：やや易～標準

(1) 穴埋め問題。アジア NIEs と ASEAN は基本的事項。絶対に落とせない。

(2) 三角グラフの読み方が分かっているならば簡単に正解できた問題。合計が 100% にならないとおかしいと分かる。こちらも落とせない。経済発展によってグラフ上をどのように推移していくのかも確認しておこう。

(3) 学習が進んでいる人とそうでない人で差がついた問題ではないかと思われる。90 年代以降の日本で第二次産業の就業人口比率が低下した要因について問われた。冷戦終結によるモノや金の移動自由化、円高進行と国内賃金上昇に伴う産業の空洞化、工場における機械化など、重要な論点が盛りだくさんの問題なので、解説をしっかりと読み込んで復習して欲しい。

(4) アジア新興国での工業化の要因について問われた問題。輸出加工区が想起できたかどうかポイント。知識を適切なタイミングで取り出す訓練を積んでいこう。輸出加工区に関する重要事項（税制優遇や安価な労働力）は必須なのでしっかり確認しておくこと。

設問 B：標準～やや難

(1) 知識産業と生産者サービス業を問う穴埋め問題。抽象度が高い用語だったので解答できなかった受験生も多かったのではないかな。第三次産業がどのように変化しているのか、またどのように分類されているのか確認しておこう。

(2) 集積回路の輸出入額から国を判定する問題。高度な技術が求められる集積回路の生産では日本や韓国が、集積回路を用いた組み立てでは豊富で安価な労働力を有する中国が、それぞれ有力である。近年日本の集積回路生産が停滞気味であることにも注意。

(3) 大都市に集積するサービス業と地方に分散するサービス業についての理解が問われた。論理的な思考力・整理力・推測力が試される問題だった。最新の情報を基に高度な意思決定を面と向かって行う分野(開発部門や広告)と単なる情報処理やコールセンター業務、生産部門の区別をしておこう。推測の域を出ないが、新型コロナウイルスの流行を踏まえて所謂リモート業務が広がりつつあり、今後地方へのさらなる分散が想定される。ホットな話題にも常にアンテナを張っておく必要がある。

(4) データセンターの立地について問われたが、元から知っていたという受験生はほとんどいなかっただろう。重要なデータを扱うという施設の性質、太平洋側に立地が少ないという点から地震対策という答えが出せたかどうか、推測力を要する問題だった。近年起こると予想されている南海トラフ対策として太平洋側の工場(自動車など)が分散していることなども合わせて押さえておくと良い。

〈第三問〉

第三問総評

国際的な移住について出題された。こちらも頻出テーマである。第三問では設問 B のように日本地理に関して問われることが多いため、中学校の教科書も参照しつつ対策する必要がある。移住者について論じる際は、受け入れる側だけでなく、送り出す側の事情も相互的に視野に入れなければならないことに注意。個々の具体的事例に関しては知識が必要になるので入試までに詰め込んでおこう。

設問 A : 標準

(1) 穴埋め問題だが、以降の問題を解きながら埋めていくのが利口か。ここを落とすと以降の問題での大量失点も考えられるので慎重に正解したい。

(2) ミャンマーでの迫害問題についての細かい知識が問われた問題。出来なかった受験生が多かったのではないかな。あまり差がつかないので気にしなくて良い。

(3) 性比が低いのはホンコンである。東アジアにおける金融の中心として所得が高水準なホンコンでは、主に東南アジア出身の女性移民を家政婦として雇うケースが多い。東南アジア出身の女性移民の活躍について確認しておこう。

(4) 2000 年以降急速に移住者が増えているのはドイツだ。ドイツは日本と同様急速に少子高齢化が進んでいることで有名である。そのため労働力が不足し、一部を移住者に頼っている。

(5) トルコとメキシコでの定住を望んでいない者が多い理由について問われた。トルコは中東地域と欧州の、メキシコは北米と中南米の、それぞれ境界に位置している国であることから答えを推測できるかどうか。

(6) イタリアとスペインの移住者受け入れ増加における、共通の要因と内容の違いについて問われた。書くべき事柄に対して 3 行しかないため、簡潔に答案を作成することが求められる。両国共に「EU 加盟国」であり「北アフリカに近接している」という共通点があり、それぞれ「域内からの出稼ぎ労働者の増加」「北アフリカからの不法移民の流入」という現象の背景となっている。その内容に注目すると、高齢化の進むイタリアでは東欧出身の移住者が介護や家事業に従事しており、スペインでは中南米出身の移住者が観光業に従事することが多い。模範解答について、前半で EU 域内と北アフリカにしか触れてないにも関わらず、後半で唐突に南米出身者が登場するなど、やや疑問に感じる点もあるが、受験生としては流出国・流入国それぞれの事情について見識を深めておけばよい。

設問 B : 標準

(1) それぞれの市区町村を厳密に把握する必要は勿論無いが、A~F と①~⑥をきちんと対応させなくてはならない。地域ごとの移住者の国籍や従事する産業の特色押さえておこう。

(2) 技能実習制度の問題点について問われた。指定語句の「技術移転」「高度技能」の使い方が分からなかった受験生が多かったのではないだろうか。技能実習制度の本来の趣旨と実態を、解説を読み込んで理解しておくべき。

(3) 在ベトナム日本人が増加している要因について問われた。ベトナムの経済成長について論じる際にはやはりドイモイが欲しいところ。経済成長によって日本とのビジネスが増えてきていることを指摘すればよく、点数を稼ぎたい問題だった。